

氏名	佐藤 泰 正
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3129号
学位授与の日付	平成9年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Cathepsin B in the Growth of Colorectal Cancer: Increased Activity of Cathepsin B in Human Colorectal Cancer (大腸癌の進展におけるカテプシンBの意義：ヒト大腸癌にお けるカテプシンB活性の上昇)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 原田 実根 教授 槇野 博史

学位論文内容の要旨

チオルプロテアーゼであるカテプシン Bは癌の転移と関係している。ヒト大腸癌の腫瘍の増殖におけるカテプシン Bの関与を明かにするために、その活性値と免疫組織染色ならびに臨床的な腫瘍の進展度との関連を検討した。癌でのカテプシン B活性は、周囲の正常組織の活性と比較して有意に高かった。さらに、癌では腫瘍組織と腫瘍の周辺組織のカテプシン B活性の比が大腸の腺腫より有意に高かった。免疫組織学的検討では癌の組織で強い染色が証明された。腫瘍の臨床病期との関連では、カテプシン B活性は漿膜や漿膜下層まで進展していた腫瘍で固有筋層まで進展していた腫瘍に比して高い傾向にあった。以上より、カテプシン Bはヒト大腸癌の進展に関与しており、またその上昇は大腸の腺腫と癌を鑑別する有用なマーカーである事が示唆された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究はカテプシン Bの大腸癌の発生と進展における意義を検討したものである。著者らは癌組織のカテプシン B活性は、周囲の正常組織の活性と比較して有意に高くなることを証明し、免疫組織学的にもこの事を裏付けた。また腫瘍の臨床病期との関連では、カテプシン B活性は壁深達度に応じて上昇することを示した。このことによりカテプシン Bは大腸癌の進行度を推定し、また大腸の腺腫と癌を鑑別する上で有用なマーカーであると考えられ、本研究は癌の診断学にとって価値ある業績と認められる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。